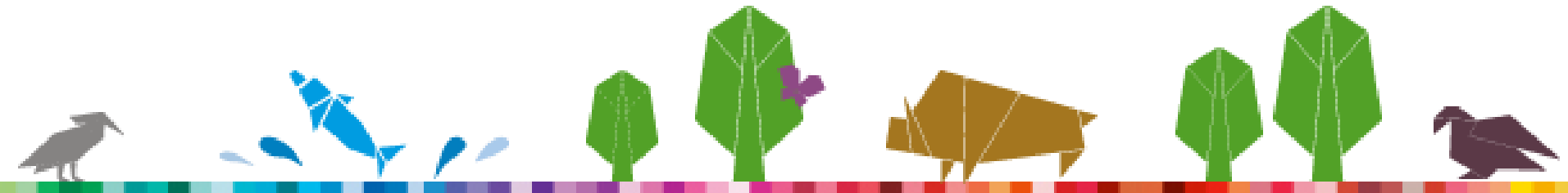


みんなで広げよう！

“京いきものがかり”の輪

いろんな“いきもの”を守る活動

京都市 × 生物多様性保全活動



開催概要

みんなで広げよう！ “京（みやこ）いきものがかり”の輪

- 開催日時：2018年11月15日（木）13:30～15:30
- 開催場所：京都御池創生館 地下1階
- 参加者：17名
 - 一般参加（市民、生物多様性保全活動団体など）：8名
 - 京都市職員（環境管理課、市民協働ファシリテーター研修受講生）：9名



ワークショップのねらい

開催背景

- 京都市では様々な生物の保全活動を「生物多様性保全活動」と称して支援しているが、市民の認知度が低く、参加者も少ない。
- 京都市は、保全活動団体と市民（参加者）をつなぐ制度「京都市生物多様性保全活動登録制度」を運用しているが、制度の認知度も低く、登録者数も伸びない。

本ワークショップにおける問い（深めたい観点）

- **「京都市生物多様性保全活動」に参加する人を増やし、活動を活性化させるために・・・**
 - ① **魅力のある保全活動はどんな活動だろうか？**
 - 現在行われている保全活動を知る
 - 自分たちが参加したい保全活動について考える
 - ② **保全活動を市民に周知するには、どのような方法がいいだろうか？**
 - 「京都市生物多様性保全活動登録制度」について知る
 - 市民に伝わりやすく、参加したくなる、保全活動の発信方法を考える

本ワークショップのゴール

- **京都市で行われる生物保全活動が、市民にとって魅力的なものになる**
- **生物保全活動の市民への効果的な周知手段が明確になる**

京都市の生物多様性保全活動に参加する市民が増え、活動が活性化する

ワークショップのプロセス

1. 問いの共有

- ・ファシリテーターが、“京（みやこ）いきものがかり”の意味、ワークショップの問い・流れ・ゴール、ルールを説明。

2. アイスブレイク（サークル）

- ・参加者が、自分の好きな京都市の自然やいきものを述べる自己紹介を行う。

3. いきものの現状と保全活動を知る（インタビュー）

- ・テーマ所管課に京都市のいきものの現状・課題について伺う。
- ・京都市で活動されている保全活動団体に活動内容や課題等を伺う。

4. 自分が行ってみたい保全活動の具体化（ワールドカフェ）

- ・参加者自身が、行ってみたい保全活動を具体的に考える。

5. 「京都市生物多様性保全活動登録制度」を知る

- ・テーマ所管課が、活動団体と市民をつなげる制度「京都市生物多様性保全活動登録制度」の説明を行う。

6. 保全活動の効果的な周知方法を考える(ブレスト+マグネット)

- ・参加者が、保全活動の効果的な周知方法を自由にあげ、考えの近いものでチームになる。

7. アウトプット作成（クイックプロトタイピング）

- ・これまでのワークを基にして、ある保全活動を行ったことを想像し、「日記」を作成する。

8. 活動報告（サークル）

- ・参加者が、“京（みやこ）いきものがかり”として一歩踏み出した気持ちを発表する。



2（自己紹介）の様子



4（ワールドカフェ）の様子



7（日記の発表）の様子

アウトプットサマリー

みんなで広げよう！“京（みやこ）いきものがかり”の輪

- 「生物多様性保全活動」「登録制度」等の固い印象の名称を、わかりやすく、親しみのあるものに変えて認知度を上げる。
- 情報の発信は、登録制度以外にも多面的に展開。
- 活動に「おしゃれ感」「楽しさ」「食べる」「子ども」「つながり」等の新たなテイストを加える。

活動を知ってもらう

- 名称をわかりやすく、親しみのあるものに（⇒ “京（みやこ）いきものがかり”等）
- 思わず参加したくなる情報を多面的に発信
SNS、町内会の回覧、動物園等の半券にQRコードを掲載、人気イベントとのタイアップ

団体の“つながり”の機会を

- 川の流域で活動をつなげる等、複数の団体がコラボした企画を実施

活動内容に、新たなテイストをプラス

- 《おしゃれ感》
インスタ映えを利用したカレンダー作り
- 《楽しさ》
子どもにとっての遊び、ゲーム性、スポーツ性をとり入れる、
- 《食べる》
地産品（雑草）レストラン、採れたものを食べる、給食に野草をとり入れる
- 《子ども》
いきもの子どもサミット
- 《つながり》
人がつながる（婚活、友活等）

自然やいきものを保全する機運が盛り上がり、活動が広がる

アウトプット詳細

1. 私がしてみたいくなる保全活動（ワールドカフェ）
2. どうすれば“京（みやこ）いきものがかり”が増えるかな？
（ブレインストーミング）
3. “京（みやこ）いきものがかり”日記を書こう！！
（クイックプロトタイピング）
4. 本日の活動報告
（サークル）
5. アンケート

私がしてみたくなる保全活動

ゴミ拾い

- ゴミのない綺麗なフィールド作り
- 参加したいが、足が遠のいてしまう。

生命の大切さを学ぶ

- 自分で生物を育むことで、命の大切さを実感

知識が得られる

- 気軽な山登りで活躍できる、知識が得られる

自然に直接ふれあう

- 卵を産む場を作る
- 水とふれあう
- 見て楽しい 一緒に庭作り
- 高瀬川の生物チェック

里山活動

- 里山での生活の継承活動（保育園等）
- アニマルワールド（鹿の駆除等）
- お祭りなどの伝統
- 失った自然を復元

食べる

- 食べられる活動
（おいしい→笑顔, 知識, 交流, 季節感）
- 野草の天ぷら（旬のもの（紅葉）など）

人といきものつながり

- 人の営みと動物の啓蒙
- 人と動物の関わりについて,
「ダーウィンが来た」形式に講演する

多世代で参加できる

- 子どもと参加できる
- いろんな世代が参加できる

つながることができる

- 若者世代のネットワーク
（現場でつながる大切さ）
- 実際に会って活動する
- 普段関われない人とも関われる

活動場所

- 身近な場所での活動
- 街なかで出張活動会
- まちに里山をつくる

どうすれば“京（みやこ）いきものがかり”が増えるかな？

登録制度について

- 登録制度というタイトルが難しい
- 生物多様性という言葉が固い
⇒ “いきものがかり募集”
- 動物園，水族館等の施設の半券にQRコードを掲載
- 登録制度を知ってもらおう（方法の検討要）
- 情報を充実させる
- お得な情報を見出しにする

情報発信について

- SNSの活用
- インスタ映え
- ホームページで動画を流す
- 映画のCM
- 人気イベントとのタイアップ
- 企業へのレクチャー
- 会見パネルに掲載
- 町内会の回覧を利用
- スーパーにチラシを置く
- GOGO土曜塾に掲載
- 新聞に特別欄を作る
- 大学の生協，学祭で広報
- 小学校，幼稚園を通じて（広報する）
- イベントにブース出展

活動内容について

- ボランティアへの参加
- クリーン大作戦（〇〇川“流域”でつながる）
- 継続する活動
- 講演会の実施（魅力的なテーマ，講演者）
- 子どもにとっての遊びを取り入れる
- 飯ごうすいさん
- 競争性やスポーツ性を取り入れる
- 大学の講義に含める
- 仲間を増やして，発信拠点を
- 地産品レストラン，雑草レストラン
- 給食で野草を出す
- テスト（授業）で出してもらおう
- 「おいしいもの」を全面に出す
- 食材探し
- 小学校（中学・高校）の授業で体験（保全活動，食べ比べ，防災，草を食べる）

その他

- 財源（ボランティアの限界⇒森林税など）
- 行政の協力関係（行政の垣根をとる）
- 情報交換の場，機会をもつ
- 利害関係者の理解
- 優先利用権
- 子どもの面倒を見てくれる
- 10～30代が少ない
- オオサンショウウオを展示（鴨川で見る）
- 婚活（雑草で共同作業）
ex.もちつき，よもぎとり

“京（みやこ）いきものがかり” 日記を書こう！！

• **いつ (when)**

- ① 10月初旬
- ② 10月10日
- ③ 12月1日

• **誰と (who)**

- ① 学区ごとの人たちで
- ② 会社の同僚と
- ③ 写真好きなお友達と（自然の写真をガイドさんに教えてもらいながら）

• **どのような保全活動に (what)**

- ① 森, 里, 川 (流域) で, 「生き物探検」
⇒ 「生き物子どもサミット」を開催
- ② 山の中にひっそりとたたずむ環境保全レストランで行われるパーティー (婚活) に参加
- ③ 京都自然 (来寄見) カレンダーづくり
～みんなで作る“いきもの”カレンダー～

• **どうやって保全活動を知ったか (how)**

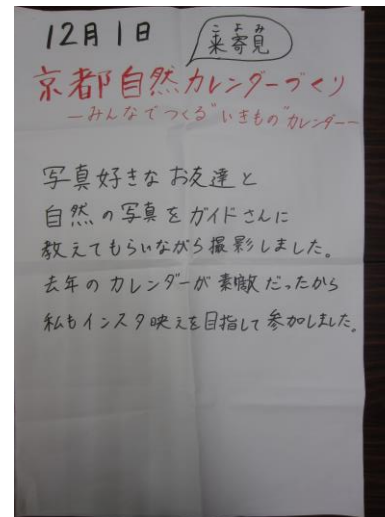
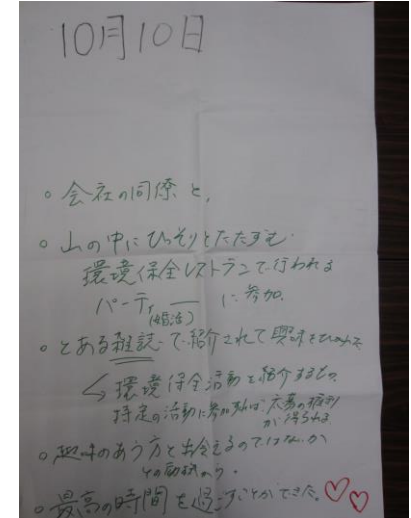
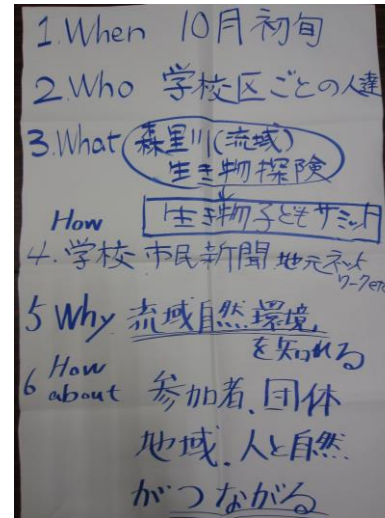
- ① 学校や, 市民しんぶん, 地元ネットワークなどの周知で
- ② とある雑誌で紹介されて興味をひかれた (環境保全活動を紹介するもの。特定の活動に参加すれば, 応募の権利が得られる。)
- ③ 去年のカレンダーが素敵だったから

• **なぜ参加したか (why)**

- ① 流域の自然環境を知れる
- ② 趣味の合う方と出会えるのではないかとの動機から
- ③ 去年のカレンダーが素敵だったから, 私もインスタ映えを目指して参加しました。

• **どう感じた (how about)**

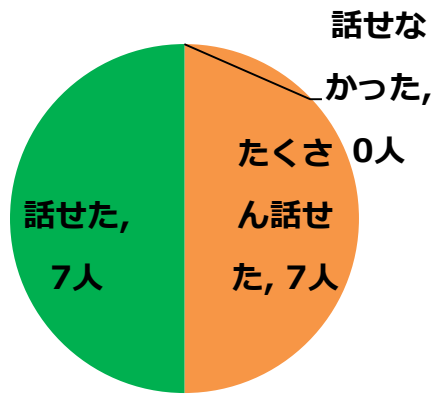
- ① 参加者, 活動団体, 地域, 人と自然がつながれる
- ② 最高の時間を過ごすことができた
- ③ (なし)



本日の活動報告

- 保全活動には、楽しさの要素も必要だと感じた
- “保全活動”や“生物多様性”という単語だと急に溝ができる
その溝を埋めるためにも、おしゃれさや変化球が必要だと感じた
- これまでは直球の活動を企画していたが、変化球（食べ物、インスタ映え）も必要だと感じた
- これまでの里山活動には、おしゃれさが足りなかった
- 個々の活動だけではなく、流域でつながる、そして支える必要がある
- 保全活動について素人の方でも、活動の情報が知れる・聞き流さない仕組みが必要
- 個々の活動も重要であるが、やはり最初は興味を持ってもらいにくい
- 以前に開催されていた御池フェスティバルのように、多くの方に広く知ってもらう場（イベント）も必要
- “京いきものがかり”というネーミングが良かった
- 人と人、自然と自然を繋ぐことが大切
- 保全活動を楽しんでもらうとなるとお客様として参加してもらう場となる
誰かがその活動の場（いきもの）を守る必要があり、その役割を公共が担う必要がある
- 若い人たちがこのような活動をしてくれており嬉しかった

Q1 自分のアイデアや意見を話すことができましたか？



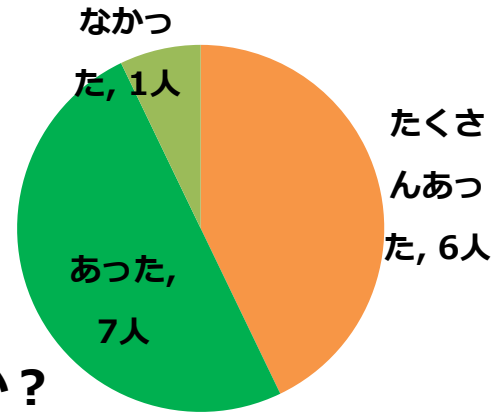
14人全員が「話せた」と回答！

- ★ 今日のような機会を今後も作って欲しい。
- ★ 他の参加者のアイデアに押されて、それが自分のアイデアをひらめかせるきっかけになり、たくさん話せました。
- ★ 難しいタイトルでしたが、割合話せました。スタッフの誘導が良かったです。

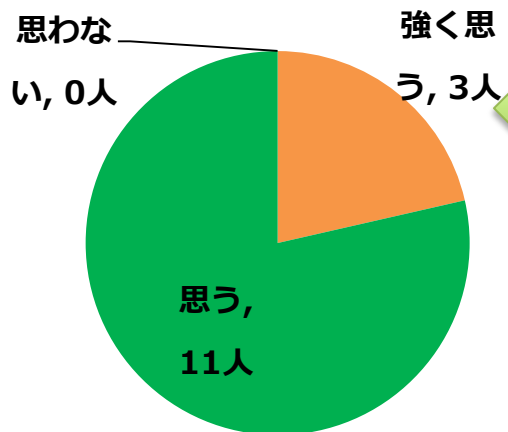
Q2 新しい気付きや発見はありましたか？

この時間にたくさんの気付きが生まれました！

- ★ オシャレは活動参加者をつなぎとめるキーワードだと思った。私の団体はそれが少ないのかも。
- ★ 他団体の取組を聞いてよかった。
- ★ 自分が生き物に意外に関心があったということ。



Q3 セッションのテーマに継続して関わりたいと思いますか？



14人全員が「継続して関わりたい」と意欲！

- ★ 生物多様性活動登録制度の登録メンバーを増やして欲しい。
- ★ アイデア創出に有効な活動だと思う。
- ★ 現在も案外かかわっていると思う。

Q4 “京いきものがかり”を増やしていくために、

一番重要だと感じた点は？

アンケート

一番重要な点	その理由
市民のつながり	身近な環境について、人とのかかわりを強くする。
オシャレに活動参加できること	危険、汚い、つらいに（活動内容が）なっていたかも。反省。
生物多様性の場（里山、河川等）	お客さんを増やすというだけでなく、プロを以下に動かすかを考える。公共事業というか地域経済から。
地域ごとのつながりをつくる	それぞれの思いの和をつくるのが自然環境を守ると思ったから。
「環境保全」とか むずかしい言葉を無くす 。オシャレでわかりやすくPR	環境保全とかいわれると身構えてしまうから。
外に向かって情報を発信していくこと	なし
自然環境の保全	生物はしたたかな戦略で生きている。自然環境さえ守れば、生き残れる。
オシャレ	写真等で若手の人の興味をさらに集めたらいいと思った。
テーマ+何か	生き物だけでは、人はよってこない。 何かその人にとってプラスとなるものを足す こと。例：インスタ、自己満足、美味しさなど
わかりやすく、自分事と捉えることができるような情報発信	「生物多様性」と聞いて、活動に参加したくなる動機につながりにくい。その先に何かあるのかを共有できるようなきっかけ。
オシャレ	若い世代に来てもらうのに必要だから！
変化球	直球を活かすのは変化球！と感じたため。
プラスワンにオシャレ	「保全活動」と言われるとすごく硬く感じるので、面白さとおしゃれさでそれを中和すべき。
参加できる場づくり	場づくりの広報方法がポイント。

レポート設計シート

テーマ

生物多様性保全活動に参加してもらうには

問い

みんなで広げよう！“京（みやこ）いきものがかり”の環

市民対話ワークショップ
で実現したい状態

生物多様性保全活動と市民を効果的につなぐ『仕組み』が明確になると同時に、参加者の保全活動への『参加意欲』が高まる。

	ステップ（セッションのストーリーライン）		
	テーマに対して、どのような多様な意見が得られたか？ 1. 問いを共有する 2. 関係性をつくる 3. 多様な知識を持ち寄る	テーマをどのように捉えなおしたか？ 4. 新しい問題の構図を描く	どのような成果が生まれたか？ 5. アイデアを広げる 6. プロトタイピングする 7. アクションを生み出す
1. エビデンス セッションの アウトプットや 対話内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 命の大切さを学ぶ、失った自然を復元する、人の営みと動物の関係の啓蒙など、京都市の自然環境が崩れてきているという認識が共有できた。 ・ 互いの興味や活動などを話し合い、緊張感が解け、仲間意識が生まれた。 ・ 行ってみたい活動や、こんな活動があればいいといった希望案を描けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「京都市生物多様性保全活動登録制度」について説明し、制度の仕組みや現状を理解した。 ・ 保全活動を周知するための、様々なアイデアが出された。 ・ 参加者を増やすことだけでなく、プロをいかに動かすかという視点が大事。つまり地域経済が動く必要がある。 ・ 行政の垣根を取る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保全活動を活性化するための、様々なアイデアが生まれた。 ・ 活動団体が自らを振り返る場となり、同時に、より魅力的な活動に発展できる“ヒント”が得られた。 ・ 複合的（環境、教育、福祉、観光、ものづくり）な公共事業として考える必要がある。
2. キーワード エビデンスから 抽出した繰り返 し出てきたキー ワードや、気にな るキーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみのないきれいな状態 ・ 触れる ・ 食べる ・ 水を活用 ・ 若者世代のネットワーク ・ 色々な世代が参加できる ・ 里山での生活の継承・復活 ・ アニマルワールド ・ 知らない人と関わる ・ （スマホなどではなく）現場でつながる大切さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS, HPの活用 ・ 「登録制度」を知ってもらう ・ 「生物多様性」「登録制度」という言葉が固く、難しい印象 ・ 「いきものがかり募集」 ・ 人気イベントとのタイアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直球だけでなく、変化球も混ぜてみる ・ 子どもにとっての遊びをとり入れる ・ 学区ごと ・ 流域 ・ インスタ映え ・ 自然やいきものの写真を使ったカレンダーを作成 ・ 「いきもの子どもサミット」 ・ 地産品レストラン、雑草レストラン ・ 給食に野草を出す ・ 食材探し ・ 出会い、婚活 ・ 今日のような機会を作ってほしい ・ 自分が、意外にいきものに対する関心があることがわかった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山の流域で、色々な世代が参加する姿 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「生物多様性保全活動」「登録制度」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容に「おしやれ感」「楽しさ」